



全てのジャンルに創造の場を開いたアート・プラットフォーム

OPEN SITE は、あらゆる表現活動が集まるプラットフォームの構築を目指し、2016年より始まったトーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）の企画公募プログラムです。

9回目となる2024年度は279企画の応募の中から展示部門4企画、パフォーマンス部門2企画、dot部門1企画を選出しました。さらにTOKAS推奨プログラムを加えた全8企画を実施します。

時代性を反映した独自の視点で、これまでにない表現を探求する創造的な企画にご期待ください！

開催概要

プログラム名：OPEN SITE 9

実施期間：Part 1 2024年11月23日（土・祝）～12月22日（日）

Part 2 2025年1月11日（土）～2月9日（日）

会場：トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

休館日：月曜日（1月13日は開館）、1月14日（火）

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

ウェブサイト：<https://www.tokyoartsandspace.jp/>

募集概要

募集期間：2024年2月28日（水）～3月30日（土）

応募総数：279企画

審査員：岸本佳子（BUoY 芸術監督）

小林晴夫（blanClass ディレクター）

梶中実（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員）

近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター）

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

広報担当：舟橋、市川、武智

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1154 E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

関連イベント

■ Part 1 オープニング・トーク

日時：2024年11月23日（土・祝）16:00 - 17:30

出演：ハビエル・ゴンザレス・ペッシェ、COM_COURSE | 岸本佳子、小林晴夫

※日英逐次通訳あり

■ Part 2 オープニング・トーク

日時：2025年1月11日（土）16:00 - 17:30

出演：滝戸ドリタ、KANTO | 島中実、近藤由紀

2024年11月1日（金）14時よりチケット予約受付開始！

パフォーマンス公演および一部のイベントは予約制です。

TOKAS ウェブサイトの各企画ページから予約専用サイト (Peatix) にアクセスし、必要事項を入力の上お申し込みください。詳細は後日チラシと TOKAS ウェブサイトでお知らせします。

※各公演とも定員になり次第、または公演前日 17 時をもって予約受付を終了します。

実施企画 / 広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

Part 1: 2024年11月23日（土・祝）～12月22日（日） 開館時間：11:00 - 19:00 入場無料

ハビエル・ゴンザレス・ペッシェ Javier GONZÁLEZ PESCE

展示部門

「mundo」(世界)

人間の生活と、地球上に存在する他の生命体や物質との関係は政治によって規定され、この繋がりのもとで、人間は指数関数的に増大し、他の生命体を追いやりながら領土を拡大していった。人類の存在は空間を縮小させ、世界の物質的構成を再定義している。本展では、チリで活動するアーティスト9組による作品から、地球の生物学上に現れた政治を媒介とする、人間と自然の関係についての異なる見解を提案する。



1. レオン&コシーニャ 《Los Huesos》2021

キュレーター

ハビエル・ゴンザレス・ペッシェ

アーティスト

パトリシア・ドミンゲス、イルマ・セプルベダ、アイマラ・ゼガーズ、フアナ・スベルカソー、ソフィア・デ・グレネード、クリストバル・シーア、レオン&コシーニャ、ニコラス・ルプシッチ、セバスチャン・メヒア

イベント

11月30日（土）16:00 - トーク

プロフィール

アーティスト、キュレーター。2011年よりインディペンデント・スペース「Local Arte Contemporáneo」(サンティアゴ)の共同ディレクターを務める。アイデアと現実が絡み合う空間がアートであるという信念のもと、詩的思考や批評的思考を、物や音、その他の表現によって補完させることを目指す。

協力：駐日チリ共和国大使館

実施企画／広報用画像

Part 1: 2024年11月23日(土・祝)～12月22日(日) 開館時間：11:00 - 19:00 入場無料

COM_COURSE

展示部門

「その姿の探し方」

美術家の久保田荻須智広と美術史家の吉村真が、洋画家・荻須高德の署名があるパリの風景画の調査を起点に、20世紀の断片的な日仏の美術史を個人的な記憶やフィクションを交えながら空間化を試みる。荻須高德というこのポピュラーにしてマイナーな存在に対するふたりの追跡はときに夢想到に流され、ときにさらにマイナーな存在へと対象を変えながら、一貫した歴史の記述というより複数のありえたかもしれない過去の眺めを描き出していく。

2. 久保田荻須智広 《Anonymous painter》
2023

アーティスト

久保田荻須智広、吉村 真、荻須高德、不詳の画家

イベント

12月7日(土) 15:00 - レクチャー(予約制) / 17:00 - アーティストガイドツアー(予約不要)

プロフィール

美術家の久保田荻須智広と美術史家の吉村真によるユニット。2020年結成。各々の研究内容から逸脱した領域を遊戯的に扱う。現在は隠伏している歴史のリサーチを起点とした作品制作を行っている。主な活動に「BankART AIR 2023 SPRING OPEN STUDIO」(BankART Station、横浜、2023)など。

Part 1: 2024年11月23日(土・祝)～12月8日(日) 開館時間：11:00 - 19:00 入場無料

柄澤健介 KARASAWA Kensuke

TOKAS 推奨プログラム

「肌理と稜線」

近年、現代美術の展覧会でしばしば目にする、絶えず変化する社会情勢を捉えるための瞬発力があるメディアとは対照的に、柄澤の作品は、山河などをモチーフとした上に、耐久性を持つ素材を扱うことで、人の想像の及ばないほどの長い時間について思いを巡らせるものである。本企画によって柄澤の活動を紹介するとともに、目まぐるしく変容する現代美術の世界で彫刻を扱うことの意義や可能性について考えるきっかけとしたい。

3. 《道》2023
Photo: 城戸 保

イベント

11月24日(日) 16:00 - トーク

プロフィール

1987年生まれ。愛知県を拠点に活動。金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科彫刻専攻修了。登山など山岳での経験をもとに、山河などのモチーフを中心に彫刻を制作する。クスノキを彫り出した窪みに、熱によって溶かしたパラフィンワックスを流し込み固めることで、幾重にも層を作る独自の技法を用いる。

実施企画／広報用画像

Part 1: 2024年12月17日(火)～12月22日(日) 開館時間：11:00 - 19:00 入場無料

そこからなにがみえる What do you see from there?

dot 部門

「そこからなにがみえる：二つ目の試み」

本展では、遠藤幹大、草野なつか、玄宇民の3名が2023年に発表した共同インスタレーション作品《川の長さにまで至る、三行の薄いしるべを引く》の再構成・再上映を中心に、各作家が2画面上映に即した新作をそれぞれ発表する。新作は過去作の再構成や他作家との共作、制作中のプロジェクトのスケッチなど、ジャンルの枠に囚われない、新たな映像作品の発表形式を提示する。

アーティスト

そこからなにがみえる(遠藤幹大、草野なつか、玄宇民)、キム・イキョン

4. SCOOOLでの展示風景 2023
Photo: 相模友士郎

イベント

12月21日(土)、22日(日) 各日とも15:00 - トーク

プロフィール

映画・映像作品を制作する遠藤幹大、草野なつか、玄宇民によるコレクティブ。上映という形式のより自由な可能性と、観客との新たなコミュニケーションを模索している。主な活動に上映会「[] (Frame/Border)」(SHAREtenjincho、東京、2022)、インスタレーション上映会「川の長さにまで至る、三行の薄いしるべを引く」(SCOOOL、東京、2023)など。

Part 2: 2025年1月11日(土)～2月9日(日) 開館時間：11:00 - 19:00 入場無料

滝戸ドリタ TAKIDO Dorita

展示部門

「Energeia Cycle 分解と循環のエネルギー」

植物と共生する微生物による燃料電池、光合成を利用する藻類電池、そして水の電気分解による燃料電池と、複数の発電の仕組みを組み合わせた作品を発表する。それぞれから発電された微弱な電気は再び植物へと還流され、その電気刺激を介して植物の成長促進を試みる。本作品を通じて、本来あるべき循環の姿とともに、人間の道具としての電気と自然との関わりを再考する機会を提示する。

イベント

2月2日(日) 17:00 - トーク

ゲスト：永田康祐(アーティスト)、他

5. 《Energeia Cycle 分解と循環のエネルギー》
2024
Photo: Dorita Takido

プロフィール

異なる機能や感覚を組み合わせ、従来の感覚がずれるような体験を創出、またはヒトと生物の新しい関係を築くことを目指す。人工筋肉を植物に装着しロボティクスと生物と植物の進化を問う作品などを制作している。主な展覧会に「文化庁メディア芸術祭企画展『AUDIBLE SENSES』」(表参道ヒルズスペースオー、東京、2022)など。

支援：令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業

研究協力：寛康明、東京大学寛康明研究室 | 協力：安倍信貴、伊藤里織、香川舞衣、佐々木有美、佐倉玲、高橋宙照、田崎勝也、林みき、水野恒雄、吉田知史、株式会社ニソール、株式会社マクルウ

実施企画／広報用画像

Part 2: 2025年1月11日(土)～2月9日(日) 開館時間: 11:00 - 19:00 入場無料

KANTO (佐藤浩一 + ARCHIVE) KANTO (SATO Koichi + ARCHIVE)

展示部門

「水の博物館」

多摩・武蔵野の水環境の変遷をたどるフィールドワークと、環境と人間の相互作用に関するリサーチをもとに、映像作品および資料をインスタレーションとして展示し、エコロジカルな諸問題を、どこか遠い場所ではなく、私たちの生活圏の中で思考することを目指す。

イベント

2月2日(日) 14:00- トーク

ゲスト: 黒沢聖覇 (キュレーター)、他

6. Hideki Umezawa + Koichi Sato
《Echoes from Clouds》2021 -2023

プロフィール

2024年結成。アーティストの佐藤浩一と学術プロジェクト「ARCHIVE」を運営する岡村皓史を中心とする、関東地方の環境・歴史・産業・芸術に関するリサーチと創造活動のためのプロジェクト。主な展覧会に「Supersensible 超越人之感」(デジタルアートセンター台北、2023) [佐藤浩一] など。

Part 2: 2025年1月23日(木)～1月26日(日) 有料: 要予約

中川麻央 NAKAGAWA Mao

パフォーマンス部門

「Magnetic Contradictions」

確立された物質であると同時に流動的に変化する身体。内外部の影響を受けながら複雑に更新されていく身体という概念。本企画では、映像インスタレーションとパフォーマンスをとおして、時代の流れや、社会という枠組みによって変化していく身体とその概念、実生活の体験から人形浄瑠璃の伝統芸能まで、身体にまつわる認識に焦点を当て、展示空間や建物をも媒体に変容していく身体性を空間に立ち上げ、認識の拡張を試みる。



7. 《Magnetic Contradictions 2022》

Photo: Kenta Kawagoe

©Global Art Practice, Graduate School of Fine Arts, Tokyo University of the Arts, 2020

公演

1月23日(木) 19:00 -

1月24日(金) 19:00 - ★アフタートーク | ゲスト: 沢山 遼 (美術評論家)

1月25日(土) 14:00 - ★アフタートーク | ゲスト: 毛利悠子 (アーティスト)

1月26日(日) 14:00 -

¥2,000 / 予約制 ※各日も公演時間以外に、映像インスタレーションと、パフォーマンスから抜粋した1シーンを実践探究するボディプラクティスを行います (入場無料)。詳細スケジュールはTOKAS ウェブサイトをご確認ください。

コンセプト、構成、振付、パフォーマンス: 中川麻央

プルオーバーコスチュームデザイン: 雪浦聖子 (SNEEUW)

パフォーマンスアシスト: 高橋 凜

サウンドソース提供: 山口晋似郎

テクニカルディレクション: 遠藤 豊 (LUFTZUG)

協力: LUFTZUG

制作: 田村孝史 (テレビマンユニオン)

プロフィール

三重県出身。東京都、オランダを経て現在は京都府で活動。身体を表現手段の軸とし、空間・物質・身体の関係性、体の動きによって作用する時間感覚の変化などを考慮し、視覚的・感覚的なパフォーマンス作品を制作する。近年の主な活動に「heso」(豊岡演劇祭 2023 フリンジセレクション部門、兵庫) など。

実施企画／広報用画像

Part 2: 2025年2月7日（金）～2月9日（日） 有料：要予約

現代サーカス集団 RUTeN Contemporary Circus RUTeN

パフォーマンス部門

「現代サーカス－砂上の楼閣 Re.creation」

“まだみたことのないカタチのない形、そのツミキが完成するまでに”
日常で目にする素材を非日常的なサーカス器具として取り入れて、想像力や記憶へのアプローチをする現代サーカス公演。制限がある空間や新たな場所との出会いでの発見や広がりを探る。確かなものも容易に崩れていく今、不安定なバランスのおもしろさを提案していく。自動化が進む現代の物理的障害に対して重力と向き合うことで形成されたサーカスの身体、空間やオブジェクトとの関係性で生まれる相互作用を駆使して、新しいバランスに変換していく。



8. 「RUTeN2022」
FUN FATALE（チェコ）での公演風景
©FUN FATALE

公演

2月7日（金）19:00－

2月8日（土）14:00－、18:00－

2月9日（日）14:00－

¥2,000／予約制

音楽（ヴァイオリン）：南口えり
舞台美術：カミイケタクヤ
サーカス・パフォーマー：吉田亜希

プロフィール

パンデミックにより不要不急な活動への制限がかかり落胆した時、それでもあらゆる芸術性を内包した現代サーカスは、心が動くきっかけになり日常の考えを豊かにできるはずという信念のもと、2020年に結成。近年の主な活動に「豊岡演劇祭 2023 フリンジストリート」（兵庫）、「レトニレトナフェスティバル」（プラハ、2023）など。

OPEN SITE 9
広報用画像申込書

Email : press@tokyoartsandspace.jp

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください。下記の URL からダウンロードも可能です。)

1 2 3 4 5 6 7 8 ウェブバナー

<https://www.tokyoartsandspace.jp/press/form/15>

掲載媒体名 (特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他 ()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送 (月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

- ・ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただき目的のみ利用させていただきます。
- ・お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

- ・画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。
- ・画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1～2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。
- ・作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。
- ・提供した画像データは、使用後速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Webサイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。
- ・情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。
- ・取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVDを一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Webサイトの場合は、掲載時にURLをお知らせください。

< お問い合わせ > ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp